

生笑一座 ただいま公演中

NPO法人抱樸 生笑一座

座長 蛤 牡蠣右衛門 (本名:奥田 知志さん)
NPO法人抱樸 理事長、
社会福祉法人グリーン
コープ 副理事長、牧師

座員 西原 宣幸さん
房野 幸枝さん
松葉 吉一さん
松尾 壽幸さん
下別府為治さん
谷本 仰さん
NPO法人抱樸 副理事長、
牧師、ミュージシャン



谷本さん(中央)のリードで、学生たちを前に歌い踊る生笑一座のメンバー

NPO法人抱樸は、1988年より福岡県北九州市を拠点に、困窮孤立者の生活再建を支援している。グリーンコープと連携して生活困窮者支援や地域再生に取り組んでおり、福岡市にある生活困窮者自立支援施設「抱樸館福岡」も、社会福祉法人グリーンコープと協働して運営する。「生笑一座」は、NPO法人抱樸の困窮者支援の現場から生まれたプロジェクトである。

ホームレスの経験を通して伝える

「生笑一座はこの日、ある大学の社会学の授業にゲスト講師として招かれていた。公演は座長である奥田さんの語りかけで始まる。「この一座のメンバーになるのはハードルが高いよ。元ホームレス者であること、そして『もう死んでもいい』と思った経験があることが条件だ。」

公演では、まずメンバーの西原さんが自らの経験を基に会場の質問に答え、空き缶集めの趣意を伝授する。続いてメンバー全員がそれぞれのホームレス時代を語り、学生たちにメッセージを送る。紅一点の房野さんが、谷本さんのバイオリン伴奏で「シャボン玉」の歌を静かに歌う。そして最後を締めくくると、会場一体となって歌う「ひよっこひよたん島」。



奥田さん(左)と掛け合いで、空き缶の見分け方について話す西原さん(右)

「助けて」と言えない現代社会

「生笑一座のテーマは二つ。一つは「生きてさえいればいつかきつと笑える日が来る」。そしてもう一つは「困った時は助けてと言おう」。この二つを子どもたちに伝えるために、座長の奥田さんと5人のメンバーが小中学校などの依頼を受けて公演を行っている。

当事者の言葉だから伝えられることがある

奥田さんは、ホームレスや生活困窮者の自立支援に30年近く携わってきた。特に2008年のリーマンショック以降、厳しい社会状況の中で仕事や住まいを失う人が急増。ホームレス状態に置かれた人たちのことについて話をしたいと、小中学校から依頼される機会が増えた。

「今、子どもたちが助けてと言えないまま、ある日突然生命を絶つてしまふことが続いていきます。なぜ子どもたちは助けてと言えないのか。それは大人たちが助けてと言わないからです。弱音を吐くと負け組と呼ばれ、誰にも頼らず独りで生きていくのが立派な大人だと言われる、そんな社会です。一座のメンバーは本当に辛い時を経験し、また多くの人に助けられて生きてきて、今度

は自分たちが子どもたちの力になろうと立ち上がりました。助けてと言えずに子どもたちが自ら生命を絶つ社会を変えたいと、真剣に思っています」と奥田さんは語った。

子どもたちにも現実社会の問題を理解してほしいという思いで依頼を引き受けていた奥田さんだが、冬の寒さやひもじさ、本当の辛さを知らない身でホームレスについて語ることに限界を感じ始めた。その時頭に浮かんだのが、ホームレス状態から自立して地域に暮らす「なかまの会」だった。大変な経験をした当事者の言葉だからこそ、人の心に深く届く力を持つ

生笑一座は、公演の最後にいつもこう語りかける。「苦しい時は助けてと言っていいんだよ。生きていけば笑える日が来る。おじさんたちが証拠だよ。」

公演の申し込み、問い合わせは、NPO法人抱樸まで(093-653-0799)
<http://www.houboku.net/>

グリーンコープ生協ひょうご 理事長 山本 陽子

この春から下の娘が中学生になり、娘2人と私のお弁当を3つ作っています。いつもワンパターンなおかずですが、1つ増えるだけで少し気合が入ります。

下の娘が幼稚園の頃、お弁当の時間になると「このミートボール、グリーンコープのだよ」と誰かが言うのと、「私のもグリーンコープ!」とグリーンコープ自慢が始まると先生から聞き、ひそかに嬉しかったことがありました。

朝早くから作るキャラ弁は無理ですが、グリーンコープの食材を使うことで、愛情を表現しているつもりの母なのです。

投稿募集中

私の好きなグリーンコープ商品 250字程度

- 毎月月末
- 住所氏名年齢TEL所属生協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでも送ってください。
- 掲載分にはグリーン券(グリーンコープ商品の購入に利用できます)500円分を進呈。
- 住所氏名などの組合員の個人情報 は本紙に掲載の場合のみ使用します。

福岡市博多区博多駅前1丁目5-1 博多大博通ビルディング3F
グリーンコープ福岡(エニケーション) フォカス連(FEN)共済の時代 編集部宛
FAX 092-4811-7876
Eメールアドレス tshiko@greencoop.or.jp